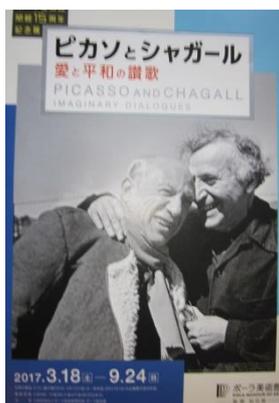


ピカソとシャガール 愛と平和の讃歌

ポーラ美術館開館 15 周年記念展

ポーラ美術館（箱根・仙石原） 2017.03.18～09.24



20 世紀を代表する芸術家「パブロ・ピカソ」(1881～1973) と「マルク・シャガール」(1887～1985) は、前衛芸術の中心地であった 20 世紀初頭の「パリ」を拠点にして、独自のスタイルを切り拓いて活躍したユニークな画家である。

「ピカソ」は、目まぐるしく変容していったその様式により最も革新的なアーティストとして注目され、「シャガール」は深い既視感を抱かせる様式によって、最も親しみやすいアーティストとして多くの人々に受け入れられている。

本展は、全く異なる様式の二人の芸術家の絵画作品「約 80 点」を対話のごとく並べて展示する世界でも例のない試みとともに、タペストリー作家と共同で製作された「大型タペストリー」を通じて創造の軌跡を紹介している。

ピカソ《ゲルニカ（タピスリ）》 1937 年 油彩/壁画



ゲルニカ爆撃の報道を見て、傷ついた人々を動物とともにモノクロで描いた作品で、三角形の構図の中心に馬が配され、画面右手から左に向けて家から飛び出す人々、逃げる者、倒れる

人、牛の脇で亡くなった子を抱き泣く母親などが描かれている。

シャガール《誕生日》1915 年 油彩/厚紙



シャガールとベラは、両親の反対があるにも拘わらず結婚し、若い二人は非常に幸せであった喜びのあかしを描いた作品である。

画伯は、ソファのクッションの絵柄やテーブルクロスも最新の注意を払って描き、部屋の調度品を忠実・正確に表現しようと努力がされている。